

入場  
無料

# ジョー・オダネル『ナガサキ写真展』

◆期日：2015年10月31日(土)~11月8日(日) 9:30~16:30 ◆会場：角田山妙光寺

終戦70年  
いま戦争を見つめ  
平和を祈る

## 焼き場に立つ少年



あの少年を、おぼえていますか？

70年前の原爆投下後、小さな弟を背中におぶって胸を張り、歯を食いしばっていた少年です。

弟を焼き場に置いた後、少年は裸足で、黙々と丘を登って行ったそうです。

米軍カメラマンによって撮られた少年の写真は、数奇な運命をたどりました。

50年の間、カメラマンのトランクの中に封印されていました。

そして20世紀の終わり、人々が戦争の記憶について

深く考え始めた時、初めて世に現れました。

今年11月、

少年の写真他50点が西蒲の古刹、角田山妙光寺にやってきます。

どうぞ、あなたも、70年前の裸足の少年に会いに来てください。

## 写真展開催に寄せて

賛同者 ドナルド・キーン

ジョー・オダネル氏

が、これらの写真を長崎で撮影した数ヵ月後、私は初めて日本を訪れ、荒廃した東京を見ました。あれから70年、日本は「奇跡」と言われる復興を成し遂げました。いまに生きる日本人たちが、あの時の日本、あの時の長崎の写真を見て、戦後の原点である人々の思いに触れることには大きな意義があると信じています。



この少年が死んでしまった弟をつれて焼き場にやってきたとき、私は初めて軍隊の影響がこんな幼い子供にまで及んでいることを知った。アメリカの少年はとてもこんなことはできないだろう。直立不動の姿勢で、何の感情も見せず、涙も流さなかった。そばに行つてなぐさめてやりたいと思ったが、それもできなかった。もし私がそうすれば、彼の苦痛と悲しみを必死でこらえている力をくずしてしまうだろう。私はなす術もなく、立ちつくしていた。

(ジョー・オダネル)

主催：『ジョー・オダネル写真展』実行委員会 事務局 TEL 0256-77-2025

後援：新潟市 新潟市教育委員会 新潟日報社 BSN 新潟放送

# ジョー・オダネル



(1922年～2007年)

アメリカのフォトジャーナリスト。

1945年、占領軍として原爆投下直後の長崎に入る。原爆の破壊力を記録することが軍の命令だったが、それに背き、密かに瓦礫の中で生きる日本人の姿を撮影。トランクの中に封印するも50年後にそれらの写真を公開。晩年まで、体験を語る活動が続ける。2007年、奇しくも長崎に原爆が落ちたのと同じ8月9日に85歳の生涯を閉じた。

## 賛同者

- ドナルド・キーン(日本文学研究者)
- 村田幸子(福祉ジャーナリスト、元NHK解説委員)
- 大倉 宏(美術評論家「砂丘館」館長)
- 中村周而(弁護士)
- 川島 明(司法書士)
- たっつあん(フォークシンガー)
- 愚案亭遊佐(役者)
- 斉藤文夫(NPO法人佐藤家保存会理事)
- 堀川久子(舞踏家)
- 村井 勇(写真家)
- 中野 亘(陶芸家)

## 会場へのアクセス

- ①JR巻駅からバスで35分、妙光寺入口下車。徒歩3分。
- ②JR内野駅から定期バス「シーサイドエクスプレス」が運行中。「妙光寺入口」下車。
- ③自家用車の場合、新潟市中心部よりR402経由で約40分。

## シーサイドエクスプレス時刻表 (運賃300円)

平日					土・日・祝日				
行き		内野駅前発			行き		内野駅前発		
7:40	10:00	15:40	17:30	19:00	10:10	11:50	17:30	19:20	
帰り		妙光寺入口発			帰り		妙光寺入口発		
7:10	9:30	15:05	16:55	18:30	9:30	11:15	16:55	18:45	

